

4月4日(金)～6日(日)の3日間、パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市)において、JRC2008が開催された。今回のメインテーマは「よりよい放射線医療を求めて」。サブタイトルには「ナノからテラまでの戦略」が掲げられた。期間中は晴天に恵まれたこともあり、学会参加登録者数は9970名、2008国際医用画像総合展(ITEM in JRC 2008)の実入場者数は2万1455名に上った。

基礎と臨床、産学連携を踏まえ 合同企画を増やす

初日の午前9時から、展示ホールにおいてITEM2008の開会式が行われ、引き続き午前10時からは、メインホールで合同開会式が行われた。合同開会式には、日本ラジオロジー協会(JRC)の遠藤啓吾代表理事、第67回日本医学放射線学会総会(JRS)の松井修会長(金沢大学)、第64回日本放射線技術学会総会学術大会(JSRT)の真田茂大会長(金沢大学)、第95回日本医学物理学会学術大会(JSMP)の村山秀雄大会長(放射線医学総合研究所)、ITEMを運営する日本画像医療システム工業会(JIRA)の猪俣博会長(当時)が出席。JRSの松井会長からは、社会から医療現場の品質管理とでも言うべき医師の専門性や倫理が問われている今、学会が何を求められているかを念頭においてプログラムを組んでいるとの挨拶があった。また、JSRTの真田大会長からは、基礎と臨床、産学の連携を図るため、合同シンポジウムなどの企画を多く設けたとの説明もあった。

CyberRad 2008のIHEデモに 27のベンダーが参加

その言葉どおり、今回の期間中には、合同特別講演が2題、合同シンポジウムが5題設けられた。また、JRSはシンポジ

ウムが7題、特別講演が5題、招待講演が4題。JSRTはシンポジウムが3題、特別講演が2題用意された。演題数はJRSが口述が434題、電子ポスター発表であるCyPosが738題(全演題)、教育展示が71題となった。JSRTは口述が378題、CyPosが347題で、JSMPは口述が128題、CyPosが10題であった。また、CyPosの会場となった展示ホールAは、CyberRad 2008の会場ともなっており、一般演題として、11題の発表があった。

CyberRad 2008のテーマは、「ワークフロー重視のシステム化の実現—よりよい情報システムを求めて」。毎年恒例となったIHEのデモンストレーションも行われ、27のベンダーが参加した。このデモンストレーションは、2月に行われたコネクタソン2008の結果を踏まえたもので、ITEMと連動したビューワソフト体験、CD-Rによる画像連携といった、参加者が体験できる内容となっていた。

JRC2009は来年4月16日から 4日間の日程で開催

3日間の参加登録者数は、JRSが4480名、JSRTが4040名、JSMPが494名となり、非会員の956名を含めると、合計9970名に上り、1万人超えに後わずかと迫った。ITEMの実



ITEM会場

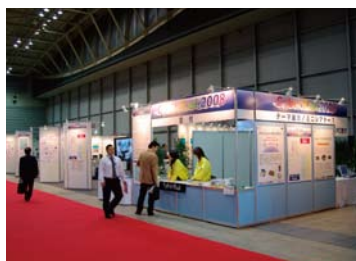
入場者数は、昨年の2万2148名から減ったものの、出展企業数は昨年を上回る140社(医療機器・関連132、医薬品7、学会1)を記録した。

なお、JRC2009は、2009年4月16日(木)～19日(日)の4日間(ITEMなどは17日から3日間)の日程で開催される。JRS会長は山田章吾氏(東北大学)、JSRT大会長は小水 満氏(大阪大学)、JSMP大会長は齋藤秀敏氏(首都大学東京)。テーマは「輝く放射線医療 今そして未来—人と技術のハーモニー」となっている。

- 2008年6月号はJRC特集です。ご期待ください。



CyPos会場



CyberRad会場



合同開会式の様子。写真左から猪俣 博 JIRA前会長、遠藤啓吾 JRC代表理事、村山秀雄 JSMP大会長、真田 茂 JSRT大会長、松井 修 JRS会長。